

1 インタビュー

NTTグループの総合ICT事業を ソフトウェア技術で牽引、「あなたと世界を変えていく ソリューションビジネスパートナー」へ

新ドコモグループとして、ドコモ・システムズと統合、ドコモ・データコムを新たにグループに迎えたNTTコムウェア。新コムウェアグループとして「コムウェア・アイデンティティ」をはじめ、「コムウェア新宣言」を策定。お客さまに、世界に、新たな価値を提供し続けるためのNTTコムウェアの取り組みについて黒岩社長にお話を伺った。

技術の力で未来をデザイン 心がつながる豊かな社会の実現

——ドコモグループとなり2年めを
むかえていかがでしょうか。

黒岩 昨年は、NTTコムウェア創業25周年の節目の年であり、ドコモ・システムズと統合し、ドコモ・データコムをグループに迎え、新たなスタートを切ることができました。当社はICTの進化により世界が大きく変化する中、ソフトウェアのプロフェッショナル集団として、新たな市場・サービスの創出と積極的な技術革新によりお客さまの事業成長を支え続けてきました。これからも、ソフトウェア開発力をはじめとした技術の力で、あらゆる人・もの・コトが自由につながる、人と社会にやさしい未来を描き心がつながる豊かな世界の実現に貢献していきます。

ドコモグループの一員として、先進的なデータ活用等による顧客・ユーザー体験（CX/UX）価値向上への貢献や、さらなる業務効率化によるコスト低減といった、統合シナジーをいっそう加速させ、2年めの改革を進めていきます。

——NTTコムウェアの現在の事業方針についてお聞かせください。

黒岩 事業環境の変化を踏まえ、昨年「コムウェア・アイデンティティ」と「コーポレートメッセージ」を刷新、「コムウェア新宣言」を新たに決めました（図1）。

「コムウェア・アイデンティティ」は「私たちは、未来を技術の力でデザインし、心がつながる豊かな世界を実現します。」と、当社の存在意義、大切にしたい価値観、ありたい姿を表現した言葉です。

その「ありたい姿」を実現するために、「コムウェア新宣言」と「サステナビリティ活動方針」を策定しました。「コムウェア新宣言」は2027年度までに当社が取り組む具体的な事業の方向性を示しています。経済的価値を生み出す事業活動に環境や社会課題の解決を組み込み、新たな価値を創出する取り組みは、これからの企業の持続的な成長に欠かせないものであり、この2つを密接不可分なものとして取り組んでいくことが重要と考えています。そして社員一人ひとりが「ドコモグループ行動原則」に基づき自ら



NTTコムウェア株式会社
代表取締役社長
社長執行役員
黒岩 真人氏

考え行動し「あなたと世界を変えていく。」の実現に向けて挑戦していきます。

——「コムウェア新宣言」とは具体的にどのようなものなのでしょうか。

黒岩 新コムウェアグループは、「あるべき姿」を「NTTグループの総合ICT事業をソフトウェア技術で牽引し、あなたと世界を変えていくソリューションビジネスパートナー」と定義し、お客さまに、世界に、新たな価値を提供し続けるため、主に3つの柱で事業運営に取り組んでいきます。1つめは「新たな価値創出、社会・

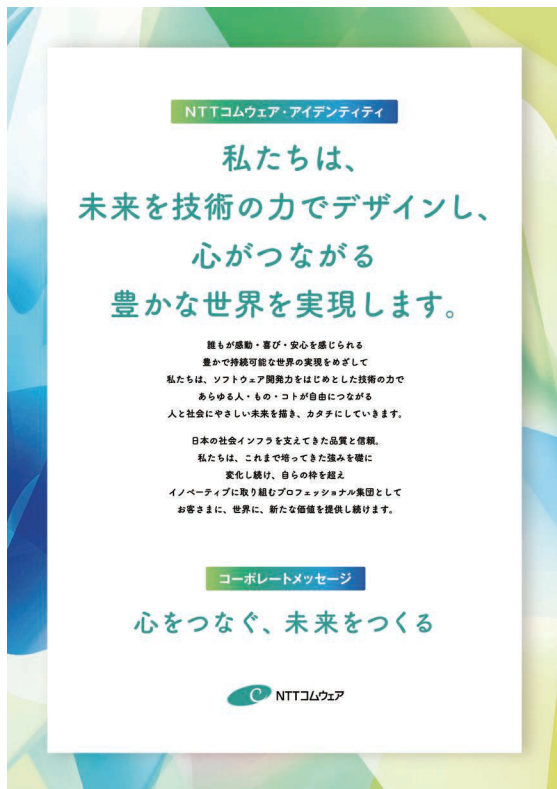


図 1

産業構造変革を引き起こし、ドコモグループのビジネス拡大を牽引すること」。2つめは「社会インフラの担い手として、次世代に向けネットワーク・プラットフォームを高度化すること」そして3つめに「NTTグループのDXを主導し、その成果をお客さまへ提供していくこと」です。

ドコモグループの ビジネス拡大を牽引

——「新たな価値創出、社会・産業構造変革を引き起こし、ドコモグループのビジネス拡大を牽引」とはどのような取り組みでしょうか。

黒岩 新たなビジネス価値・未来のライフスタイルを創出していくために、NTTドコモのサービス提供におけるスクラム開発への参画、そして横断的なデータ活用による顧客・ユーザ体験 (CX/UX) 価値向上、

ビジネス拡大に向け取り組んでいきます。サービス開発における“Time to Market”の短縮をめざして、アジャイル開発のプロセス改善、標準化等でも価値を発揮していきます。

データサイエンスやアジャイル人材についてはNTTドコモ、NTTコミュニケーションズとの合同研修プログラムをはじめ、実践型の育成強化にも引き続き注力しており、2022年度末のデータサイエンス人材3000名の目標は前倒しで達成、アジャイル人材2200名の目標も順調に達成する見込みです。

——価値協創を通じて、社会課題を解決するソリューションビジネスを強化されるとのことですが、具体的にはどのように取り組まれているのでしょうか。

黒岩 ドコモビジネスとして、社会インフラのメンテナンスを支える「SmartMainTech (スマートメインテック)」、ビジネスに必要なコラボレーションを最適化する「Collabo Work Solution (コラボワークソリューション)」、持続可能な街づくりに向けた「GreenUs (グリナス)」(本誌P.90にて紹介)等をはじめとするマーケットイン型ソリューション等のソリューションラインアップを拡充させながら、グループ各社、パートナー企業とともに連携し、社会課題の解決、ビジネス拡大に取り組

んでいきます。

社会インフラの担い手として 次世代ネットワーク・プラットフォームの高度化へ

——次世代にむけたネットワーク・プラットフォーム高度化とは具体的にどのような取り組みでしょうか。

黒岩 これまでに培ってきたNTTグループが提供する信頼性の高い通信インフラを支えるシステム群の開発、および長年の維持運用で蓄積したノウハウ・技術をアセットとして結集し、Operation Support System (OSS) ソリューションとして国内外のお客さまに向けて展開する検討を進めています。市場や運用高度化・標準化等を通じて得た知見をIOWN構想の具現化に反映する取り組みを進めていきます。

また、社会インフラの維持・高度化としてのPSTNマイグレーションについても完遂に向け着実に対応を進めていきます。ドコモグループのBusiness Support System (BSS) 等においてはアジリティ向上に取り組み、さらにDXを加速していきます。

NTTグループのDXを主導 その成果をお客さまへ提供

——NTTグループのDX実現のために期待される役割はどのようなものなのでしょうか。

黒岩 NTTグループのDXに向けた共通のITシステム導入については、確実なサービス開始に向け取り組み、NTTグループの競争力強化、全体最適を牽引していく役割を果たしていきます。

——本日はありがとうございました。